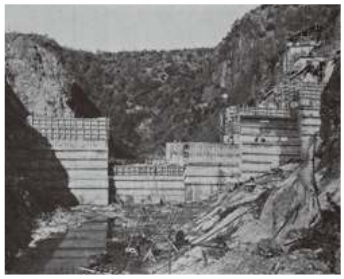
戦後初めての国営事業

鴨川ダム

1949年（昭和24年）、農水省が戦後初めて手がけた国営事業の一環として鴨川ダムが着工しました。このダムはコンクリートでできており、その材料のセメントは相野駅よりトラック輸送し、山上倉庫までの250mは索道リフトにより運搬しました。その後エプロン、コンベヤによりミキシングプラントに運びます。骨材についても加古川より農林省用につくった専用トラックにより昼夜続けて運搬。着工からわずか2年で、貯水量8,380トンの鴨川ダムが完成しました。

物資が不足する中、占領軍から特別にセメントや資金の支援を受けて工事が進められました



建設途中のダムの様子
半分ぐらい打ち上がったところ。細かく分けてコンクリートを入れていることが分かります

基礎岩盤処理の様子
当時は多くの人力で慎重にすすめられました

建設用仮設備の様子
コンクリート、骨材などを製造していました

骨材運搬の様子
砂利運搬用の農林省（当時）特製のダンプカーによって加古川より採取され15kmの道のりを連なって運搬しました

完成間際の鴨川ダム

完成直後の鴨川ダム